

令和 8 (2026) 年度 国語 科 シラバス

科目	現代の国語	単位数	2	履修規定	1年
教科書	探求 現代の国語	副教材		国語便覧／核心漢字2500	担当者 篠遠 小林洋

1. 学習の達成目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

○1年目は、本文の音読及び要約を習慣づけるとともに、言葉の習得に意識的に取り組もう。
 ○いろいろなジャンルの文章に目を通そう。
 ○学校生活の中で、他者との関わりの中で用いる言葉の質を向上させよう。
 ○自身の語彙力の向上とともに、プレゼンテーション力を磨いていこう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
主な評価方法	・ 考査 ・ 記述の観察	・ 考査 ・ 行動の観察 ・ 記述の観察	・ 考査 ・ 行動の観察 ・ 記述の観察

4. 学習および評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数
前期	4 ・ 境目 ・ サイエンスの視点、アートの視点	・ 筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、自己を取り巻く世界との関わり合い方を考える。	a・「ところが」「しかし」など、逆接の接続語の働きを正確に理解している。b・「自然科学」と比較しながら、「神話」の必要性を理解している。b・「言葉の力」についての筆者の考えをまとめ、主題を理解している。	第1回 ・ 境目・サイエンスの視点、アートの視点・ことばとは何か・核心漢字2500	14
	5 ・ ことばとは何か	・ 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、日本の文化や言葉について自分の考えを深める。	a・対照的な事柄を挙げ、比較する形式を取ることで、伝えたい事柄が効果的に説明されることを理解している。b・文明を変化させるのは意外にもその時代に最も常識的な社会の通念や良識であるという筆者の考えを的確に捉えている。		
	6 ・ 身体、この遠きもの	評論の基本的な読み解き方(対比構造への着目)を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。		第2回 ・ 〈私〉時代のデモクラシー・魔術化する科学技術・核心漢字2500	
	7 わかっていないこと	論理性に着眼して評論を読み解く方法を学んで筆者の考えをまとめ、現代の科学や創造的に読むことについて自分の考えを深める。			
	8 ・ 〈私〉時代のデモクラシー	文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深める。	第3回 ・ 記憶する体・贅沢の条件・核心漢字2500		
9 ・ 魔術化する科学技術	文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深める。				
後期	10 ・ 記憶する体	食べることに對しての意識の変化に関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で社会の変遷について自分の意見を持つ。	a・本文における引用や、挿入されたグラフと、筆者の主張との関係を理解している。b・本文の記述に従って、近代から現代にかけての時代をいくつかに分け、それぞれの時代区分における「食」をめぐる問題を整理している。c・「他者理解」や「コミュニケーション」の問題について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。	20	
	11 ・ 贅沢の条件	コミュニケーションに関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で自分との関係性について自分の意見を持つ。			
	12 ・ 来るべき民主主義	・ 登場人物の心の動きに注意して、作品の主題について考察し、人間のあり方に対する考えを深める。	第4回 ・ 来るべき民主主義・開かれた文化・リスクと近代社会・核心漢字2500		
	1 ・ 開かれた文化	・ 科学技術についての文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「AI」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。			
	2 ・ リスクと近代社会	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。			
3	特編授業				22

令和 8 (2026) 年度 国語 科 シラバス

科目	現代の国語	単位数	2	履修規定	1年
教科書	探求 現代の国語	副教材		国語便覧／核心漢字2500	担当者 篠遠

1. 学習の達成目標

言語による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。(3) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 1年目は、本文の音読及び要約を習慣づけるとともに、言葉の習得に意識的に取り組もう。
- いろいろなジャンルの文章に目を通そう。
- 学校生活の中で、他者との関わりの中で用いる言葉の質を向上させよう。
- 自身の語彙力の向上とともに、プレゼンテーション力を磨いていこう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
主な評価方法	・ 考査 ・ 記述の観察	・ 考査 ・ 行動の観察 ・ 記述の観察	・ 考査 ・ 行動の観察 ・ 記述の観察

4. 学習および評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数
前期	4 ・ 境目 ・ サイエンスの視点、アートの視点	・ 筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、自己を取り巻く世界との関わり合い方を考える。	a・「ところが」「しかし」など、逆接の接続語の働きを正確に理解している。b・「自然科学」と比較しながら、「神話」の必要性を理解している。b・「言葉の力」についての筆者の考えをまとめ、主題を理解している。	第1回 ・ 境目・サイエンスの視点、アートの視点・ことばとは何か・核心漢字2500	14
	5 ・ ことばとは何か	・ 文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、日本の文化や言葉について自分の考えを深める。	a・対照的な事柄を挙げ、比較する形式を取ることで、伝えたい事柄が効果的に説明されることを理解している。b・文明を変化させるのは意外にもその時代に最も常識的な社会の通念や良識であるという筆者の考えを的確に捉えている。		
	6 ・ 身体、この遠きもの	評論の基本的な読み解き方(対比構造への着目)を習得し、論理構造を把握した上で筆者の考えの核心を理解する。			
	7 わかっていないこと	論理性に着眼して評論を読み解く方法を学んで筆者の考えをまとめ、現代の科学や創造的に読むことについて自分の考えを深める。	第2回 ・ 〈私〉時代のデモクラシー・魔術化する科学技術・核心漢字2500	14	
	8 ・ 〈私〉時代のデモクラシー	文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深める。			
	9 ・ 魔術化する科学技術	文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深める。	第3回 ・ 記憶する体・贅沢の条件・核心漢字2500	20	
10 ・ 記憶する体	食べることに對しての意識の変化に関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で社会の変遷について自分の意見を持つ。				
11 ・ 贅沢の条件	コミュニケーションに関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で自分との関係性について自分の意見を持つ。				
後期	12 ・ 来るべき民主主義	・ 登場人物の心の動きに注意して、作品の主題について考察し、人間のあり方に対する考えを深める。	b・鷲田清一「わがろうとする姿勢」で述べられた「他者の理解」を踏まえ、本作品の中では「私」が「わがろうとする姿勢」を示していることを、そのことがわかる箇所とともに指摘できる。また、その姿勢が「船長」の述懐を引き出していることを読み取っている。a・同じ単語であっても、「」の有無で異なる意味を付与することができることを理解している。b・歴史に対するフーコーの根源的な問いかけに対して、筆者が考えるその答えへの糸口を的確に読み取っている。	第4回 ・ 来るべき民主主義・開かれた文化・リスクと近代社会・核心漢字2500	22
	1 ・ 開かれた文化	・ 科学技術についての文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「AI」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。			
	2 ・ リスクと近代社会	思考の相対化をテーマとした文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」などの現代的テーマについて自分の意見を持つ。			
	3 特編授業				

令和 8 (2026) 年度 国語 科 シラバス

科目	言語文化	単位数	3	履修規定	1年		
教科書	言語文化	副教材		体系古典文法/わかる・読める・解ける古文単語330 新明説漢文/国語便覧		担当者	篠遠 小林洋

1. 学習の達成目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたり出来るようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教材に関わらず、何度も音読することで、作品の持つリズムを味わおう。
- 辞書や文法書で調べることを億劫がらず習慣化しよう。
- 授業時間に集中して、限られた時間を上手く活用しながら学習を積み重ねよう。
- プリント類や問題集、模擬試験などを通しての学びを有機的にうまく結びつけよう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
主な評価方法	・考査 ・記述の観察	・考査 ・行動の観察 ・記述の観察	・考査 ・行動の観察 ・記述の観察

4. 学習および評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数
前期	4 ・歴史的仮名遣い・児のそら寝・文法：用言の活用(動詞・形容詞・形容動詞)	①歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。②古語と現代語の違いについて理解し、辞書の使い方について学ぶ。③説話の面白さについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。④品詞について理解する。特に体言と用言の区別、用言の品詞の区別を理解する。	a・古文の入門的な文章である説話を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。a・古典の世界に親しむために、説話の歴史的・文化的背景などを理解している。b・説話という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第1回 ・古文の基礎「児のそら寝」・「絵仏師良秀」・「大江山」・文法(用言の活用)・単語帳	21
	5 ・絵仏師良秀・大江山・文法：用言の活用(動詞・形容詞・形容動詞)	①歴史的仮名遣いについて理解する。②文中の省略語を補って現代語訳する。③説話の特色について理解する。			
	6 ・竹取物語「かぐや姫誕生」・文法(助動詞)	①助動詞・係り結びの法則について理解する。②物語の内容を把握し、登場人物の心情を読み取る。③物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。④伝奇物語の特色や、『竹取物語』について理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。b・物語という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。b・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第2回 ・竹取物語「かぐや姫誕生」・漢文「推敲」・「漁夫之利」・文法(助動詞)・漢文訓読の基礎・単語帳	21
	7 ・漢文の基礎「推敲」・「漁夫之利」	①漢文訓読について理解する。②「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。③各教材の内容と故事について理解する。④各教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。			
	8 ・伊勢物語「芥川」・文法(助動詞及び敬語)	①助動詞・係り結びの法則について理解する。②接続助詞「ば」の用法について理解する。③物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。④物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。⑤歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。a・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。b・「歌物語」という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第3回 ・伊勢物語「芥川」・「筒井筒」・文法(助動詞及び敬語)・単語帳	30
	9 ・伊勢物語「筒井筒」・文法(助動詞及び敬語)	①物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。②物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。③歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。			
後期	10 ・漢文の基礎「守株」・「借虎威」	①漢文訓読について理解する。②「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。③教材の内容と故事について理解する。④教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。b・「土佐日記」や日記文学の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第4回 ・漢文「守株」・「借虎威」・土佐日記「門出」・文法(音便、敬語)・漢文句法・単語帳	33
	11 ・土佐日記「門出」・文法(音便、敬語)	①助動詞(反仮定)について理解する。②日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。③日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。④日記の特色や、『土佐日記』について理解する。			
	12 ・和歌(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)・文法(和歌の修辞)	①それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。②和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。③和歌の修辞やその役割について理解する。④さまざまな歌人についての理解を深める。⑤『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。	b・和歌の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。a・唐詩を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。b・「徒然草」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第4回 ・和歌(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)・文法(和歌の修辞)・夢十夜・徒然草「ある人、弓を射ることを習ふに」・「花は盛り」に」・単語帳	33
	1 ・唐詩	①作品とその時代について理解する。②それぞれの作品(第一夜・第六夜)を精読し「夢」を設定することでどのようなことが表現可能になったかを読み取る。③それぞれの作品の時間・空間(場所)の特徴を把握し、概略を理解する。			
	2 ・徒然草「ある人、弓を射ることを習ふに」・「花は盛り」に」	①助詞・まぎらわしい語の区別について理解する。②形容詞の音便について理解する。③随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。④随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。⑤随筆の特色や、『徒然草』について理解する。			
3 ・漢文「唐詩の世界」	(特編授業時に実施)				

令和 8 (2026) 年度 国語 科 シラバス

科目	言語文化	単位数	2	履修規定	1年		
教科書	言語文化	副教材		体系古典文法/わかる・読める・解ける古文単語330 新明説漢文/国語便覧		担当者	小林洋

1. 学習の達成目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたり出来るようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

- 教材に関わらず、何度も音読することで、作品の持つリズムを味わおう。
- 辞書や文法書で調べることが億劫がらず習慣化しよう。
- 授業時間に集中して、限られた時間を上手く活用しながら学習を積み重ねよう。
- プリント類や問題集、模擬試験などを通しての学びを有機的にうまく結びつけよう。

3. 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
主な評価方法	・考査 ・記述の観察	・考査 ・行動の観察 ・記述の観察	・考査 ・行動の観察 ・記述の観察

4. 学習および評価計画

※評価の観点：(a)知識・技能、(b)思考・判断・表現、(c)主体的に学習に取り組む態度

月	学習項目	学習内容	評価基準	考査範囲	時数
前期	4 ・歴史的仮名遣い・児のそら寝・文法：用言の活用(動詞・形容詞・形容動詞)	①歴史的仮名遣いの読み方を学ぶ。②古語と現代語の違いについて理解し、辞書の使い方について学ぶ。③説話の面白さについて、内容・表現・歴史的背景などの点から理解する。④品詞について理解する。特に体言と用言の区別、用言の品詞の区別を理解する。	a・古文の入門的な文章である説話を読んで、文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。a・古典の世界に親しむために、説話の歴史的・文化的背景などを理解している。b・説話という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第1回 ・古文の基礎「児のそら寝」・「絵仏師良秀」・「大江山」・文法(用言の活用)・単語帳	21
	5 ・絵仏師良秀・大江山・文法：用言の活用(動詞・形容詞・形容動詞)	①歴史的仮名遣いについて理解する。②文中の省略語を補って現代語訳する。③説話の特色について理解する。			
	6 ・竹取物語「かぐや姫誕生」・文法(助動詞)	①助動詞・係り結びの法則について理解する。②物語の内容を把握し、登場人物の心情を読み取る。③物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。④伝奇物語の特色や、『竹取物語』について理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。b・物語という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。b・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第2回 ・竹取物語「かぐや姫誕生」・漢文「推敲」・「漁夫之利」・文法(助動詞)・漢文訓読の基礎・単語帳	21
	7 ・漢文の基礎「推敲」・「漁夫之利」	①漢文訓読について理解する。②「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。③各教材の内容と故事について理解する。④各教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。			
	8 ・伊勢物語「芥川」・文法(助動詞及び敬語)	①助動詞・係り結びの法則について理解する。②接続助詞「ば」の用法について理解する。③物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。④物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。⑤歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。a・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。b・「歌物語」という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第3回 ・伊勢物語「芥川」・「筒井筒」・文法(助動詞及び敬語)・単語帳	21
	9 ・伊勢物語「筒井筒」・文法(助動詞及び敬語)	①物語の内容を把握し、和歌に託された人物の心情を読み取る。②物語に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。③歌物語の特色や、『伊勢物語』について理解する。			
後期	10 ・漢文の基礎「守株」・「借虎威」	①漢文訓読について理解する。②「句法のまとめ」に挙げられた句法について理解する。③教材の内容と故事について理解する。④教材に描かれた当時の中国の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。	a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。b・「土佐日記」や日記文学の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第3回 ・漢文「守株」・「借虎威」・土佐日記「門出」・文法(音便、敬語)・漢文句法・単語帳	30
	11 ・土佐日記「門出」・文法(音便、敬語)	①助動詞(反仮定)について理解する。②日記の内容を把握し、作者の心情を理解する。③日記に描かれた平安時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。④日記の特色や、『土佐日記』について理解する。			
	12 ・和歌(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)・文法(和歌の修辞)	①それぞれの和歌を声に出して読み、音声として味わう。②和歌の表現に即して内容を味わい、作者の心情を理解する。③和歌の修辞やその役割について理解する。④さまざまな歌人についての理解を深める。⑤『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の特色について理解する。	b・和歌の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。a・唐詩を通して、我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。a・古典の世界に親しむために、古典をよむために必要な文語の決まり、古典特有の表現などについて理解している。b・「徒然草」の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。c・教材の内容に関心と親しみを持ち、これからの学習に見通しをもって取り組んでいる。	第4回 ・和歌(万葉集・古今和歌集・新古今和歌集)・文法(和歌の修辞)・夢十夜・徒然草「ある人、弓を射ることを習ふに」・「花は盛り」に」・単語帳	22
	1 ・唐詩	①作品とその時代について理解する。②それぞれの作品(第一夜・第六夜)を精読し「夢」を設定することでどのようなことが表現可能になったかを読み取る。③それぞれの作品の時間・空間(場所)の特徴を把握し、概略を理解する。			
	2 ・徒然草「ある人、弓を射ることを習ふに」・「花は盛り」に」	①助詞・まぎらわしい語の区別について理解する。②形容詞の音便について理解する。③随筆の内容を把握し、作者の心情を理解する。④随筆に描かれた鎌倉時代の人々の生活や、ものの見方・感じ方を理解する。⑤随筆の特色や、『徒然草』について理解する。			
3 ・漢文「唐詩の世界」	(特編授業時に実施)				